市長対談 ほっとTタイム

待つ福祉から出向く福祉へ。現場で働く人たちに聞く

高齢者あんしんセンターの役割

市は今年４月から市内に26か所の高齢者あんしんセンターを開設しました。「待つ福祉から出向く福祉へ」を合言葉に、職員が専用の車でお年寄りのお宅を訪問し、介護に関する相談や日常の困りごとなどの相談を受け付けています。今回は高齢者あんしんセンターで働く看護師と社会福祉士のお二人をお迎えして高齢者の諸事情や市の取り組みについて考えます。

待つだけでなく出向く福祉への転換

市長　私は以前からお年を召した方に、地域包括支援センターに相談に来てもらうというのは大変だと思っていました。お年寄りのお宅に出向いて相談を受けるシステムにしようということで、これまで9つだった地域包括支援センターを26に広げ、愛称も「高齢者あんしんセンター」としました。車も市民の皆さんにすぐ分かるようなデザインにして26か所に配置するなど、全国でも例の無いこの取り組みはいわば「待つ福祉から出向く福祉へ」の転換です。この取り組みについてどう感じましたか？

沼田　初めは不安でしたが、現場の声にやりがいを感じます。「あんしんセンターです」と言って訪問すると、親しみを感じてもらえるようです。

島崎　半年が経ち、地域の人の中でもあんしんセンターの存在が少しずつ定着してきたように思います。

市長　皆さんが頑張ってくださって非常にありがたいことです。お年寄りは、連れ合いが倒れたり、認知症になったりしたらどうなるんだろうっていう漠然とした不安を抱えているんですよね。さらに最近新聞報道なんかでもありますが、役所でも企業でも親の介護のために仕事を辞めるということが社会問題になってきています。

島崎　介護離職ですね。

市長　責任感のある人ほど一生懸命に親の介護をして精神的に自分自身が疲労してしまう。そんな時にも相談に乗ってもらえる役割をあんしんセンターが担ってくれればと思っています。

高齢者をめぐる諸問題

市長　例えばケアプランの作成など、対応には時間がかかるでしょう？生活などの不安についての相談もあったり。

沼田　その人が歩んできた人生をいろいろ聞くことで、その人らしくこれから生きていくためにはどうしたらいいのか、という視点で対応させてもらっています。

島崎　一人暮らしであったりご家族と疎遠だったりということで自分が何かあったときに誰がどうしてくれるのかという悩み、将来の不安についての相談もあります。

市長　今医療も福祉も在宅で、住み慣れた地域に居ながらという考え方が主流です。そのために親の面倒を見たいと思うのは人情ですが、現実には介護の問題があります。

沼田　例えば、子どもが兄弟皆で協力しながら親の介護をするというのは、全体的に少ないのかもしれないですね。

市長　余裕もないですよね。

沼田　お仕事もありますし。また認知症になってしまったりすると四六時中目が行き届かないという心配から、ご家族が精神的に参ってしまうケースもあります。

市長　お年寄り自身の思いもあるでしょう。

島崎　お気持ちや個性を尊重しながら介護などのサービスを調整していかなければいけない難しさがありますね。

市長　例えば、相談の電話を受けるとすぐに自宅などに伺うのですか。相談に来る場合もあるでしょうが。

島崎　「地域に出ていく」という姿勢で、可能な限りお伺いします。まずは困りごとを把握し、介護サービスや地域のサロン、予防事業などにつなげる必要性があるのかを判断させていただいています。

サービスの向上を目指し現場の担当者が抱く思い

市長　現場に行って特に感じることなどはありませんか。

沼田　介護するご家族の視点ですが、融通性のあるサービス体制ができないかと考えることはあります。例えばデイサービスは16時に終わって帰宅しますが、その時間は普通だったらまだ勤務時間中で家には帰れませんよね。こうした問題を解決できれば介護者のご家族としても安心して仕事ができると思うのですが。

市長　まったく私も同じ意見です。例えば迎えに行く時間に仕事の都合で行けないなどの場合に、電話で頼めば実費で対応してもらえるというシステムを考えているんですよ。

沼田　これからはそうしたサービスがすごく必要なことだと思います。

市長　島崎さんはどんなことを実感されていますか。

島崎　やはり買い物の問題がありますね。近所のスーパーでさえなかなか行けないとか。私たちが担当している中川・新高尾地区でさえそうした声を多く耳にします。

市長　買い物難民をゼロにしようということで、市では買い物代行ボランティアの制度に平成25年度から取り組んでいます。現在のボランティア数は200人ほどですが、今年からは長寿会にも協力を呼びかけるなど、もっと広く働きかけていきますよ。さまざまな高齢者福祉の問題に直面する現場に出ていくことでお二人とも仕事量は増えましたか。

沼田　増えました。うちのセンターは東・西・北小学校区と広いものですから。

市長　何人で対応しているのですか。

沼田　実質的な職員が3人、パート1人です。地域の高齢化率も高いものですから3人だとちょっと大変です。

市長　島崎さんのところも広いですよね。

島崎　はい。あんしんセンターが地域のよりどころにもなってきているということで、相談が増えてきている反面、十分な対応を考えると大変です。

市長　お年寄りとの信頼関係も築かなければいけないから対応に時間がかかるでしょうしね。広い地区を受け持つセンターは2チーム作るなど検討していく必要がありますね。高齢者の福祉を取り巻く環境を向上させていくために、今後ともご協力をよろしくお願いします。

沼田・島崎　よろしくお願いします。

Mayor KENJI TOMIOKA
富岡賢治市長

「待つ福祉から出向く福祉へ」を合言葉にさらに充実した福祉行政に取り組む。地域包括支援センターの愛称を「高齢者あんしんセンター」とし、市内9か所だったセンターを26か所に拡充し専用の車両を配備した

TAKAKO NUMATA
沼田貴子さん

今年４月から高齢者あんしんセンター「たかさき社協」で管理者を務める。看護師で介護支援専門員の資格も持つ。介護関連の職歴は20年以上。たかさき社協では、北小・東小・西小学校区の町内を受け持つ

TOMOHIRO SHIMAZAKI
島崎智洋さん

今年４月から高齢者あんしんセンター「MWS（エム・ダブル・エス）日高」で管理者を務める。社会福祉士の資格を持つ。介護関連の職歴は15年以上。MWS日高では、新高尾小・中川小学校区の町内を受け持つ